

第3回岡山県地域包括ケアシステム学会学術大会抄録

【抄録】

(目的) 当事業所は、積極的かつ活発的な運動を通じて利用者の「生活を元気にする」ことをテーマにしたリハビリテーション特化型デイサービスセンターです。利用者の活動性を確保した上で、転倒事故を防止するための取り組みを実施し、当事業所での転倒事故件数を削減させることを目的としました。

(方法) 取り組みとして2つ実施しました。

まず1つめは、当事業所の利用者全員を対象として「立ち座り時、移動時における付き添い有無の一覧表」を作成し、新規利用者や既存利用者の歩行状態の変化によって一覧表を追加・更新し、年間を通じて転倒事故防止への意識を高める取り組みを行いました。

そして2つめは、当事業所の利用者全員を対象として在宅で転倒した利用者の転倒状況の聞き取り調査を10ヶ月間(2017.4～2018.1)実施しました。

(結果) 2つの取り組みを実施した結果、当事業所での転倒件数は昨年に比べて9件→4件と削減することができました。

(考察) まず1つめは、「立ち座り時、移動時における付き添い有無の一覧表」を随時更新し、職員全員が確認できる場所に提示しておくことで、転倒事故防止に対する意識が高まったと考えられます。また、転倒リスクのある利用者の行動を抑止する優先順位が明確になったことも未然の転倒防止につながったのではないかと考えられます。

そして2つめは、利用者が在宅で転倒した環境面や状況を確認し、その転倒した動作や行動を当事業所でも起こりうる動作・行動としてとらえて、危険を予知することで未然に転倒を防ぐことができたことが、転倒事故件数の削減につながったのではないかと考えられます。

「転倒事故削減への取り組み」



リハビリ特化型

デイサービスセンター

当事業所は、積極的かつ活発な運動を

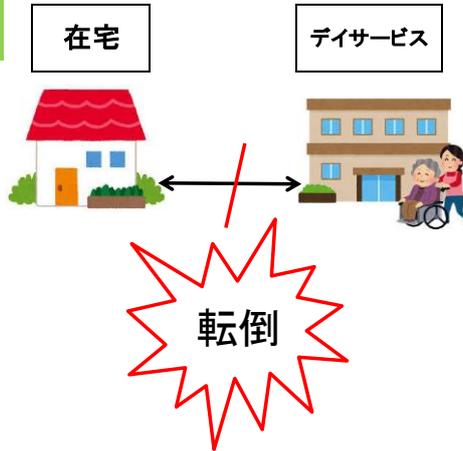
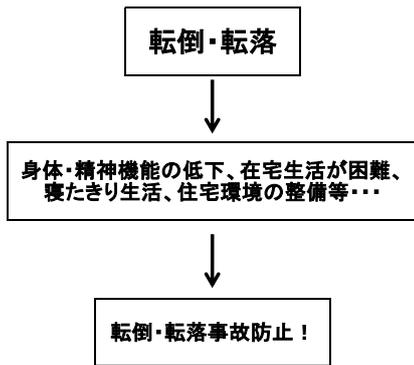
通じて利用者の「生活を元気にする」

ことをテーマにしたリハビリテーション

特化型のデイサービスセンターです。



【転倒・転落が及ぼす影響】



【目的】

利用者の活動性を確保した上で、転倒事故を防止するための取り組みを実施し、当事業所での転倒事故件数を削減させる。

取り組み①



【取り組み方法】

① 在宅で転倒した利用者の転倒状況の

聞き取り調査を10ヵ月間実施(2017.4~2018.1)

② 新規利用者、そして転倒リスクの高い

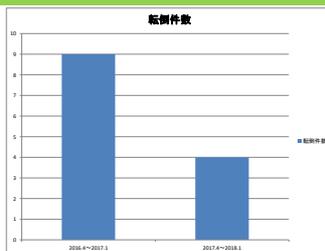
利用者をピックアップした一覧表を作成

取り組み②

氏名	環境	立座	移動	トイレ	備考欄
●●様	×	○	○	△	△…トイレコール促す
○○様	×	×	×	×	転倒リスク↑ため1人での行動注意
▲▲様	○	×	○	×	立ち上がり時後方へのふらつきあり
△△様	○	×	×	△	トイレコール押さずに出てくること多々あり
■■様	×	×	×	×	トイレは付き添う
□□様	○	×	○	△	足元への注意力が低い(椅子の脚注意)

- 和室の数cmの段差につまづき転倒 → すり足歩行のため、玄関内のマット注意
- ベッド→車椅子の移乗時にブレーキをかけずに1人で移ろうとして転倒 → マシンやトイレ等移乗する際に、ブレーキの確認を行う
- 車椅子使用時に床に落ちたゴミを拾おうとして前方へ転落 → 自席の荷物や物を拾おうとする姿を見かけたらすぐかけつける
- 朝食時、傾眠強く椅子からずり落ちる → トイレやマシンの待ち時間は注意！
- 朝刊を取りに1人で外に出て、車と車の狭い間を横歩きで歩いている際にバランスを崩し転倒 → 基本的に移動時は杖にて自立だが、利用者と利用者の間を歩く時や障害物を避けようとする際は注意をする！
- 落としたりを拾おうとして後方へ転倒 → 物を落とした時はすぐかけつける
- カーテンを開けようとしてバランスを崩す → ドアの開閉時、方向転換時注意！！
- 歩行器のブレーキをかけたまま、秒利進を進もうとしてバランスを崩す → 移動の前でブレーキの解除とロックの掛けをする
- 両手に荷物を持って、急ぎ足で歩きながら前方へ転倒 → 移動は自立だが、急いで歩く様子を見かけたら、焦らせない声かけを！

【結果】



転倒件数が9件→4件と減少

【考察】

取り組み②の一覧表を職員全員が確認できる場所に提示しておくことで、転倒リスクのある利用者の優先順位が明確になり、転倒防止に対する意識が高まったと考えられる。また、取り組み①で在宅での転倒状況を当事業所の行動に置き換えて転倒防止への対策が行えたことが、転倒事故削減につながったのではないかと考えられる。